耐火屋根 吊耐火防水天井

（株）大野板金共同開発品

耐火性能を有する吊屋根構造

開発経緯

高架下駅において防火区画を形成する場合、鉄骨架構の上に載せた屋根を利用し、30分耐火の屋根と1時間耐火の壁による区画（図1）や、床スラブから高架土木躯体間に1時間耐火の壁を構成した区画（図2）を採用している。これらの手法では、既存防水天井の改修や鉄骨躯体の追 加など工事費と工期が増大する要因となる。

また、高架下駅の防水対策で設置される吊り屋根構造の場合、30分の耐火性能をもった大臣認定を取得している材料がない。

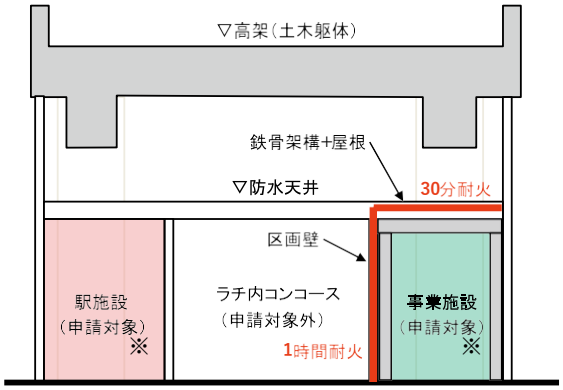


図1　鉄骨架構を組む場合

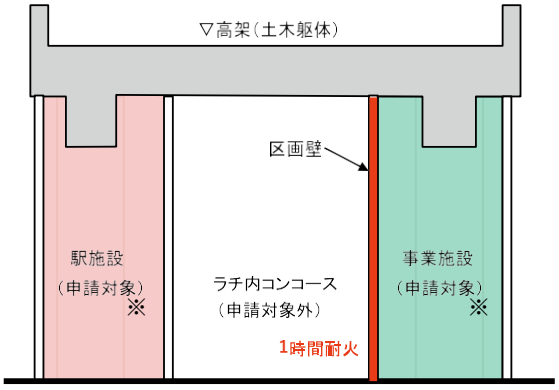
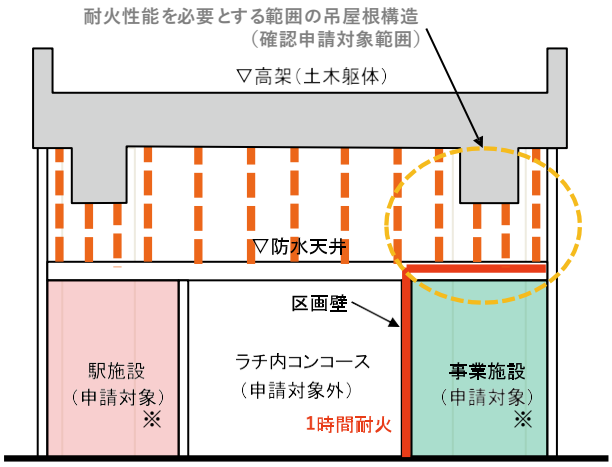


図2　土木躯体まで壁を立ち上げる場合

※建築基準法の確認申請対象範囲

特長

吊屋根構造での屋根30分耐火の仕様において大臣認定を取得（**FP030RF-1810・1812**）



※建築基準法の確認申請対象範囲

- 防水天井と防火区画屋根の**2つの機能を持った吊り屋根構造**
- **鉄骨架構**や高架橋躯体まで立ち上げる**区画壁**が**不要**
- 店舗等の**自由なレイアウト**の実現
- 継目部の**耐火性能確保**
  継目　：重ねしろ300㎜以上
  取合い：端部300㎜以下（ガラス繊維シート貼りあり）

■ 吊耐火防水天井規格

・働き巾350mm以下、山高66mm以上
・鋼板板厚0.6mm以上
・裏張り材は専用ガラス繊維シート5.0mm以上
・母屋下吊ボルトピッチ：2.000mm以下
・葺き材取付鋼材：900mm以下
・専用剣先ボルト（認定品）又は特殊防天金具（認定品）

採用実績

- JR東日本：新橋駅（採用予定）

知的財産権

- 特許第6505433号

お問い合わせ

お問い合わせ	JR東日本 東京建設PMO 駅まちづくりユニット 建築戦略 03-3493-1831（代表）
製造・販売	株式会社大野板金　049-236-5955

資料提供：東日本旅客鉄道株式会社